

在米日本人主婦の生活志向と生活適応
お茶の水女大 教授 草野篤子

〔目的〕海外帰国子女の、日本の教育システムへの適応の為の調査研究は盛んに行なわれているが、海外に住む日本人家族が、どんな生活をおくり、どのような問題を抱えているかを明らかにした調査研究はほとんどない。在米日本人主婦の生活志向と生活適応の美態を明らかにすることを目的とする。

〔方法〕1980年5、6月及び1981年3、4月に、米国ワシントンD.C.周辺及びカリフォルニア州サンフランシスコ・サンノゼ周辺に、一時滞在をする日本人家族の主婦51人に個別面接し、聴取調査を行なった。調査対象は、いずれも学齢児をもち、配偶者の職業は、会社員、ジャーナリスト、大使館員、研究者である主婦である。

〔結果〕米国へ移住した日本人主婦にとって、大きな生活障害事項は、(1)英語が自由に使いこなせないこと、(2)子供の日本語教育、(3)車の運転・公共交通機関が不便なことであった。ただし、夫が研究者の場合のみは、子供の英語教育が第2位となった。

生活志向解明の為、米国・日本志向を横軸、社会・家庭志向を縦軸に取って類型化すると、日本志向・社会志向の類型が一番多く、次に日米両国志向・社会志向、米国志向・社会志向と続き、一番少ないのが日本志向・家庭志向である。生活志向と生活適応との関係を見ると、米国志向・社会志向の主婦が適応が良く、地域別にはカリフォルニア州住民が適応が良い。

